



地域医療連携・
産業保健連携の
ための情報誌

みんみん

2017
夏号

油山病院主催の 連携の会とは

昨年発足した当院の連携の会は、認知症などの精神疾患の患者さんの症状の改善や安定化、生活の質の向上について共に考え、精神科病院と一般病院、診療所、介護事業所などにおける医療・介護の連携をより一層スムーズにすることを目的としています。

おかげさまで多くの方の賛同を得て、第2回目となる今回は前回は上回る40事業所、約160名の方にお集まりいただきました。

症例報告、様々な 立場から問題提起

今回のテーマは「地域連携で支える認知症患者」です。まずは、4施設に施設紹介と症例発表をお願いしました。

大学病院、認知症患者 医療センターの発表

まず、岩本氏より福岡大学病院の「認知症患者医療センター」「もの忘れ外来専門センター」

概要や相談件数、外来受診件数の現状報告をいただきました。尾籠先生は、BPSD（認知症の周辺症状）の安定化を図るために薬剤調整を行った結果、転倒リスクが高まるような方は退院後施設に戻ることが難しい、現場ではどのように対応されているか、という現実的な問題提起を含んだ症例発表をされました。

地域包括病棟、家族の 認知症に対する理解が必要

さくら病院の小林氏は地域包括ケア病棟の認知症患者で退院支援が遅れたケースについて発表いただきました。特に家族の認知症に対する理解の問題に触れ、入院時の早い段階から家族に対する説明や指導の必要性を訴えられました。

パネラーの方々

- 福岡大学病院 認知症患者医療センター長 尾籠 晃司 先生（医師）
- 福岡大学病院 認知症患者医療センター 認知症看護認定看護師 岩本 知恵美 氏（看護師）
- さくら病院 地域包括ケア病棟 係長 小林 美保子 氏（看護師）
- 住宅型有料老人ホーム みんなの楽施設長 榊 志保 氏
- 油山病院 急性期治療病棟 看護係長 今村 全宏（看護師）



精神疾患にかかわる皆様と
精神科のより良い
連携を目指して。

精神科 油山病院 第2回地域医療連携の会(2017.6.9.開催) 「地域連携で支える認知症患者」のご報告

精神科の急性期は、
連携の力で3カ月後の
退院をめざす

油山病院の今村は、精神科病院の急性期病棟では3カ月後の退院を前提とした治療の取り組みや患者・家族へのかかわりについて説明しました。さらに、他院や他施設、家族のそれぞれの役割を尊重し、風通しの良い連携の関係を作ることを大切と強調しました。

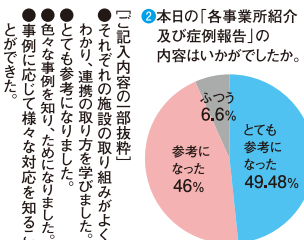
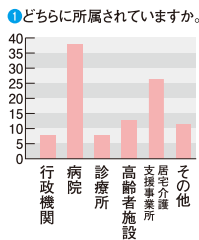
私たちが「もうひとつの
家族」になる信念

「みんなの家」の榊氏は、認知症であっても善悪の判断が可能であり、接し方によって問題行動の改善ができた事例を発表されました。問題解決の根底にあるものは、その方と「家族になる」という強い信念だと話されました。

まとめ・アンケート結果

今回は残念ながら各問題を深く討議するにいたりませんでした。ご参加の皆様からのアンケートの主な結果は以下のとおりです。

第2回油山病院 地域医療連携の会 アンケート集計結果 回答数:102名



- ③ 記入内容の「部抜粋」
● 具体的なテーマに絞って、深く議論したほうが良かったと思います。
- 認知症に対する各病院施設の対応の仕方がよくわかって良かった。
- 地域での横の連携の大切さやわかった。
- もう少し積極的な意見交換ができれば、もっと良かったと思います。

今後皆様のご意見を大切にし、より一層充実した連携の会を運営したいと思っております。



油山病院 院長 三野原 義光



TOPICS

手のぬくもりを感じる
ケアの提供に努めます。

介護老人保健施設からぎステーション 認知症リハビリテーション専門施設として おかげさまで、設立20年を迎えます。



「からぎステーション」は1997年10月に老人保健施設として開設され、2000年に介護老人保健施設となり、介護保険における中間施設として20年の歴史を有します。

開設時より精神科病院併設の施設として認知症対応のケアの提供や認知症リハビリテーションの充実を大きく掲げ、地道に実績を積み重ねてまいりました。

特にリハビリテーションについては、エビデンスに基づいた学習療法やアニマルセラピーを他に先駆けて取り組みました。最近では生活リハビリテーションや車椅子のシーティングについても当施設独自の取り組みをしております。

また学会発表の分野では、2010年の全国介護老人保健施設大会(岡山)において発表した演題「皮膚トラブルゼロを目指して」は奨励賞受賞、2015年の同大会(横浜)では演題「自立支援への新たな挑戦～やってみよう」が優秀奨励賞を受賞するなど、現場での実践的なケアの向上に取り組んだことに高い評価をいただきました。

私たち介護老人保健施設では医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、介護福祉士、介護職、作業療法士、支援相談員などの他職種が協力し合い、多面的にご利用者を支援します。そのようなマンパワーの強みを活かし、今後も地域包括ケアの中核施設として皆様のご期待に応えてまいります。

20年のあゆみ

- 1997年 10月 からぎステーション開設
- 1998年 10月 抑制廃止福岡宣言を受けて抑制廃止(NO抑制運動)を宣言する
- 1999年 家族介護教室を開始
- 2000年 7月 家族介護教室を家族会に変更
- 2001年 10月 365日通所リハビリテーションを開始
- 2002年 回想法を開始、早良区風船ハレーボール大会を開催
- 2003年 4月 リハビリテーション機能強化加算を開始
- 2004年 4月 介護サービス評価の認証を取得(2年ごとに更新)
4月 家族会を「かけはしの会」とする
- 2005年 10月 介護報酬改定に伴い、栄養マネジメント加算
- 2006年 4月 介護報酬改定に伴い、リハビリテーションマネジメント加算、短期集中リハビリテーション加算を開始
専門棟ユニット的ケアを開始
- 2007年 6月 くもん式学習療法を開始
9月 第1回みんみん祭(施設開放型文化祭)を開催(以降毎年開催)
10月 光療法を開始
- 2008年 6月 早良区自衛消防隊操法大会 2人操法フリーの部で優勝
- 2009年 9月 介護報酬改定 認知症短期集中リハビリテーション加算を開始
- 2010年 2月 アニマルセラピーを開始
11月 全国老人保健施設大会において「皮膚トラブルゼロを目指して」を発表
- 2012年 10月 前述2010年の発表が全国老人保健施設大会奨励賞を受賞
事例集「高齢者の尊厳を守るために～からぎステーションのとくみ45のおはなし～」を作成する。
- 2013年 7月 全国老人保健施設大会において「入所者の栄養評価と多職種共同のとくみについて」発表
- 2015年 9月 全国老人保健施設大会において「自立支援への新たな挑戦～やってみよう」を発表
- 2016年 4月 短時間認知症予防通所リハビリテーション「いきいき倶楽部」を開始
9月 前述2015年の発表が全国老人保健施設大会優秀奨励賞を受賞
- 2017年 2月 介護ロボットシルエット見守りセンサーを導入
5月 外装・空調設備全面リニューアル



詳しくはWEBで

医療法人 湊江堂

“ふくおか”地域の絆応援団の登録団体になりました

“ふくおか”地域の絆応援団とは、自治協議会や自治会・町内会などの地域団体が行っている地域活動をさまざまな形で応援している企業・団体などの輪を拡げるために福岡市が推奨している事業です。

昨年11月当法人は「福岡市共創のまちづくり」に寄与したとして福岡市から感謝状を贈呈されたことを契機に、このたび“ふく

おか”地域の絆応援団に法人として登録することになりました。

医療機関として地域住民の方々の健康づくり・認知症キッズサポート養成・認知症予防講座のみならず、子どもを守るパトロールなどにも引き続き取り組んでまいります。

詳しくはWEBで



精神科・内科 油山病院

〒814-0171 福岡市早良区野芥5-6-37

TEL 092-871-2261

FAX 092-863-2641

医療法人湊江堂 広報誌 第30号

2017年8月発行

発行・編集/医療法人湊江堂

〒814-0171 福岡市早良区野芥5丁目6番37号

TEL 092-871-2261(代表)

FAX 092-863-2641

minkodo-cc@aburayama-hospital.com

http://www.minkodo.com

企画・デザイン/有限会社ジェイズファクトリー

〒810-0074 福岡市中央区大手門1-9-8-2F

TEL 092-725-7261

FAX 092-725-7262

www.j-fac.com